

小倉貴久子と巡るクラシックの旅 Vol.4

# ノスタルジア

～3台のフォルテピアノで辿る ショパン愛と夢の軌跡～

毎回大好評のコンサートシリーズ「小倉貴久子と巡るクラシックの旅」。第4弾となる今回は、シリーズ第2回「ショパンの愛したピアノたち」でとりわけ好評だった、ショパンを再び取り上げます。「ピアノの詩人」と言われ数多くの名曲を残したショパン。今回はそんなショパンの、故郷ポーランドへの想いを感じることのできるプログラムです。それらの作品の魅力と今回のコンサートの聴きどころについて、フォルテピアノ奏者の小倉貴久子さんにお話を伺いました。



小倉貴久子  
(フォルテピアノ奏者)

－ 今回のタイトル「ノスタルジア」は、どんな想いを込めてつけられましたか？

パリでのデビューで大成功を収め、サロンの寵児だったショパン。たくさんのファンに囲まれて人気絶頂、華やかで充実した音楽生活を送っていたショパンですが、祖国ポーランドへの想いを常に心に秘めていました。ショパンの作品には、そんなショパンのプライベートでデリケートな感情が大きく影響しています。美しいサロン音楽の様相をまといながらも、内面はショパンの心の“ひだ”が映し出されていて、その深い世界に私たちは感情を揺さぶられるのです。今回使用するシュトライチャーのフォルテピアノは、ショパンがポーランドにいる幼少期から親しんで演奏していたウィーン式アクションの楽器です。そしてパリで愛奏したプレイエルとエラールのフォルテピアノは、ショパンが音楽に託した響きをより身近に感じることができる楽器なんです。

ショパンがたびたび口にしていたと言われる「Zal ジャル」。ショパンいわく「フランス語にはこの深い想いを表す言葉が見つからない」という複雑な感情を表す言葉で、その渦巻く想いには、祖国ポーランドへのノスタルジーが深く関わっていると思います。今回はショパンが愛奏していた3台のフォルテピアノで、その想いが昇華された「ノスタルジア」の世界を、ショパンの愛と夢の軌跡を辿りながら描いてみたいと思います。



## ▶ Frédéric François Chopin (1810 - 1849)

ポーランド出身。20歳の頃、フランスへ移り住み、パリ社交界で人気となる。その後、祖国を思いながらも二度とその土を踏むことは無かった。「心臓だけでも帰りたい」という遺言は姉ルドヴィカにより叶えられ、その心臓は今もワルシャワの教会に眠っている。音楽的才能のみならず絵や物真似なども得意だったらしい。

— 今回のコンサートでは3台のフォルテピアノが登場しますが、それぞれどんな特徴がありますか？

## プレイエル

1848年製 突き上げ式  
シングル・エスケープメント 82鍵／C1～a4

### ■演奏曲 ショパン：ピアノ協奏曲第2番（室内楽版） ほか

ショパンは「気分がよい時は、自分の思い望む音の出るプレイエルのピアノを弾く」という言葉を残しています。プレイエルのシングル・エスケープメント（※1）という単純な作りのアクション（※2）は、指先の動きが直接ハンマーに伝わるような感覚があり、鍵盤を撫でるように弾いたというショパンの奏法にぴったりと合います。プレイエルはフランスのピアノですが、ショパンは「ウィーンのピアノ」なんて呼んだりもしていたらしく、指に馴染みがあり弾きやすかったのかもかもしれませんね。



## エラール

1845年製 突き上げ式  
ダブル・エスケープメント 85鍵／A2～a4

### ■演奏曲 ショパン：英雄ポロネーズ リスト：愛の夢

エラールは、ダブル・エスケープメントというキーを元の位置まで戻さなくても再度打弦できる機構を発明しました。このアクションは超絶技巧の分野を大きく広げ、ヴィルトゥオーゾ（※3）の演奏スタイルが生まれました。ショパンの活躍したパリのサロンで多くのピアニストに愛奏された楽器です。その機構は現代のピアノへと受け継がれていきます。

## J.B. シュトライチャー

1845年製 ウィーン式（跳ね上げ式）  
80鍵／C1～g4

### ■演奏曲 ショパン：バラード第1番、マズルカ ほか

シュトライチャーはウィーン式アクションと呼ばれるシンプルな作りを持ち、タッチが軽いのが特徴です。ハンマーの材質も革（※4）なので、音の立ち上がりがはっきりとしています。ショパンはポーランドで過ごした青年期や、ウィーンでのデビューコンサートでウィーン式アクションのピアノを愛奏していました。



- \*1 エスケープメント…弦に触れる直前にハンマーを放つ仕組み
- \*2 押された鍵が動力をハンマーに伝え弦をたたき、それを止音させるまでの一連の動き
- \*3 完璧な技術によって卓越した演奏をすること
- \*4 プレイエル、エラール、現代のピアノはフェルト製

ー ピアノを弾く人はもちろん、そうでない人でも、ショパンの楽曲を耳にしたことがある人は多いと思います。小倉さんは、ショパンの作品のどんなところが人の心を惹きつけるのだと思いますか？

ショパンほどピアノという楽器を知り尽くしていた作曲家はいないのではないのでしょうか。鍵盤の白鍵・黒鍵の並びと5本の指の関係が、パッセージやフレーズで絶妙に活かされていて、ピアノを歌わせることを心得ているのです。自然で流れる旋律、魅惑的で妖艶な和声、民族的で刺激的なリズム感など、素晴らしいバランスで作品が成り立っていて、そのエスプリ（※5）感にも高揚するのだと思います。

\*5 フランス語で「精神」「知性」「ウィットに富んだ」



▶ プレイエルのフォルテピアノを演奏する小倉貴久子さん

ー 今回のコンサートではショパンの他にもリストとフィールドの作品も演奏されます。彼らはどんな作曲家だったのでしょうか？ショパンとの関係についても教えてください。

リストとショパンは性格的には正反対のタイプだったようですが、お互い惹き合うものがあったらしく、特にリストはショパンのことを尊敬していました。ショパンもリストの超絶技巧からピアノの可能性について多くの刺激を受けたと思われます。

フィールドはクレメンティのもとで学んだ作曲家で、ノクターンの創始者として知られています。ショパンもリストもフィールドを高く評価しており、特にショパンは友人に「フィールドと並び称されるなんて、嬉しくて走り回りたい気分です」と言うほどでした。美しい旋律、優美で繊細な和声、左手の広い音域を使いペダルの効果を生かした作曲法など、19世紀の作曲家に大きな影響を与えています。フィールドはロマン派音楽のパイオニアともいえる素敵な作曲家です。



クレメンティ  
(1752 - 1832)

イタリア出身。現代では「ソナチネ」の作曲家として知られているが、技巧的で大規模なピアノソナタや交響曲も作曲している。



フィールド  
(1782 - 1837)

アイルランド出身。ショパンも数多く残しているジャンルのひとつ「夜想曲（ノクターン）」を初めて書いた作曲家として知られている。



カルクブレンナー  
(1785 - 1849)

ドイツ出身。非常に優れたピアニストで、ショパンも彼の弟子になるか悩んだという。作曲を行うほか、自身でもピアノを作り、プレイエル社の発展に貢献した。



リスト  
(1811 - 1886)

ハンガリー出身。いわずとしたピアノの名手で、「超絶技巧練習曲」などを残している。ショパンとパリの芸術界を牽引した。また、ハンサムな風貌で女性から絶大な支持を得ていた。

ー 第2部では大作「ピアノ協奏曲第2番」が演奏されますが、これはショパンにとってどんな作品だったのでしょうか。聴きどころをぜひ教えてください。

ショパンが書いた2つの協奏曲のうち、前回（2020年7月8日開催のシリーズ第2弾「ショパンの愛したピアノたち」）演奏した第1番より、実はこの第2番の方が先に作曲されました。この曲はショパンがパリに出る前、ポーランドで作曲され、1830年ワルシャワ国立劇場で初演されました。第2楽章はショパンの初恋の歌手コンスタンツィア・グワトコフスカへの思慕が表現されていて、甘酸っぱいような愛と夢のテイストが感じられます。第3楽章はマズルカ（※6）のリズムで華やかな仕上がりで、そのテーマは同じく今回演奏するノクターン《レント・コン・グラン・エスプレッシオーネ》にも引用されています。

この協奏曲第2番は、青年ショパンがカルクブレンナーやフィールドなど、当時第一線で活躍していたピアニストを意識して作曲したもので、デビューコンサートを大成功に導いた大切な作品です。これら協奏曲のショパンのオーケストレーションについては批判されるところではありますが、それにはさまざまな背景が影響していると思います。「ショパン自身がオーケストレーションをしたのではない」と指摘している学者もいます。



▶2020年7月8日開催「小倉貴久子と巡るクラシックの旅 Vol.2 ショパンの愛したピアノたち」より

\*6 ポーランドの民族的な舞曲。基本的に3拍子で、第2拍あるいは第3拍にアクセントが置かれる。

## ー そもそも「室内楽版」って？

ショパンの時代のフォルテピアノやオーケストラの管弦楽器は、現代の楽器とは音量、音色も異なるので、現代の楽器でその真価を評価することは実は危険なことでもあります。また、ショパン自身はオーケストラとともに演奏することを好まなかったようで、室内楽の編成、2台フォルテピアノ、あるいはソロで演奏することの方が多かったようです。

今回の室内楽版は初版を主に底本にして、K. ケナーが編集した国立ショパン協会出版のパート譜を基本的に使います。当時オーケストラのパート譜は「切り売り」されていて、好きなパートだけ購入できるシステムでした。「ピアノと弦楽器のパート譜のみ」というセットで買うことができ、交響曲第1番の弦楽器のパート譜にはその場にはない管楽器の旋律が小さく印刷されていました。第2番も同様にそのような演奏習慣を踏襲します。そしてピアニストもトゥッティ（※7）部分では参加して演奏します。18世紀から伝わるピアノ協奏曲の演奏スタイルが19世紀初頭もまだ続いていたのです。フォルテピアノと当時の弦楽器で演奏するとき、この室内楽編成はリアリティをもって再現されます。

\*7 全員で演奏すること

## ー インタビューをご覧の皆さまへメッセージをお願いします！

本シリーズ第2回のコンサートにいらしてくださった方も、いらっしやれなかった方もみなさまに聴いていただきたいプログラムを組みました。ショパンの有名曲やリスト、フィールドといったショパンに影響を与えた同時代作曲家の作品とともに、ショパンの魅力に浸っていただきます。青年時代のポーランドからパリでのショパンまで、ショパンの愛した3台のフォルテピアノとともに、ショパンの愛と夢の軌跡「ノスタルジア」の美しい旅の夜をゆったりと贅沢にお楽しみいただきたいと思います。みなさまのお越しをお待ちしています。

\* \* \* \* \*

### 小倉貴久子（フォルテピアノ）



東京藝術大学を経て同大学大学院ピアノ科修了。アムステルダム音楽院を特別栄誉賞つき首席卒業。日本モーツァルト音楽コンクール、ピアノ部門第1位。ブルージュ国際古楽コンクール、アンサンブル部門及びフォルテピアノ部門で第1位と聴衆賞を受賞。様々な時代楽器を弾き分けた多彩なコンサートや音楽祭、テレビ、ラジオへの出演も多い。50点以上リリースのCDの多くが各新聞紙上や「レコード芸術」誌等で推薦盤や特選盤に選ばれている。平成24年度文化庁芸術祭【大賞】受賞、第30回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門【独奏・独唱部門賞】、第48回JXTG音楽賞【洋楽部門奨励賞】受賞。著書にカラー図解『ピアノの歴史（CD付き）』（河出書房新社）他。東京藝術大学及び、東京音楽大学講師。シリーズコンサート「小倉貴久子《フォルテピアノの世界》」など次々と打ち出される企画から目が離せない、唯一無二のピアニスト。 <https://www.mdf-ks.com/>

### 小倉貴久子と巡るクラシックの旅 vol.4

## ノスタルジア ～3台のフォルテピアノで辿る ショパン愛と夢の軌跡～

- ◆ **日時** 2021年12月2日（木） 19：00 開演（18：30 開場）
- ◆ **場所** 北とぴあ さくらホール（JR 京浜東北線・南北線「王子駅」徒歩2分）
- ◆ **料金** 一般 3,800 円（ペア 7,000 円） 北区民 3,000 円（ペア 5,500 円） 25 歳以下 1,800 円
- ◆ **販売**
  - ・北とぴあチケットオンライン <https://p-ticket.jp/kitabunka>
  - ・北とぴあ1階チケット売場（窓口のみ 10：00～20：00）※臨時休館日は 10：00～18：00、全館休館日は休業
  - ・チケットぴあ <https://t.pia.jp/> TEL:0570-02-9999（Pコード：200-263）  
※セブン・イレブン店頭でも直接お買い求めいただけます。
  - ・e+（イープラス） <https://eplus.jp/>  
※ファミリーマートでも直接お買い求めいただけます（ペア券の取扱いはなし）。
- ◆ **出演** 小倉貴久子（フォルテピアノ）、若松夏美／原田陽（ヴァイオリン）、成田寛（ヴィオラ）、島根朋史（チェロ）、西澤誠治（コントラバス）

### ◆ 使用ピアノ&予定曲

- ・I. プレイエル Ignace Pleyel & Compagnie（1848 年製）
  - F. ショパン：ピアノ協奏曲 第 2 番 へ短調 作品 21～ドイツ初版に基づく弦楽五重奏伴奏付き～
  - F. ショパン：ノクターン 嬰ハ短調 KKIVa-16 《レント・コン・グラン・エスプレッシオーネ》
  - F. ショパン：プレリュード 変ニ長調 作品 28-15 《雨だれ》
  - J. フィールド：ノクターンハ短調
- ・エラール Sébastien Erard（1845 年製）
  - F. ショパン：ポロネーズ 変イ長調 作品 53 《英雄》
  - F. リスト：ノットウルノ 第 3 番 変イ長調 S.541 《愛の夢》
- ・J.B. シュトライヒャー Johann Baptist Streicher（1845 年製）
  - F. ショパン：バラード 第 1 番 ト短調 作品 23
  - F. ショパン：マズルカ 変口長調 作品 7-1
  - F. ショパン：マズルカ イ短調 作品 7-2

※曲目・出演者は変更する場合がございます。